

1

出題の意図

1. 本設問は、視神経脊髄炎スペクトラム障害（NMOSD）という比較的専門性の高い疾患を題材として、

- ① 最新の治療動向や医療制度に対する基礎的理解、
 - ② 臨床医学と社会保障・医療経済を結びつけて考察する能力、
 - ③ 賛否が分かれる課題について多角的に論理的思考を行う力、
- を総合的に評価することを目的としている。

大学院生には、個々の疾患治療のみならず、医療の持続可能性や医療政策との関係を意識した広い視野が求められる。本設問では、高額薬剤の登場が診療現場や患者、医療財政に及ぼす影響を整理したうえで、費用対効果、適正使用、制度的工夫などを含めた将来的な対策を自らの考えとして提示できるかを問うている。

単なる賛否の表明ではなく、臨床的有用性と社会的制約の双方を踏まえ、現実的かつ建設的な提案ができるかどうかを重視している。

2. 本設問は、若年発症の脊髄症状と脳内多発病変を呈する症例を提示することで、

- ① 中枢神経脱髄疾患を中心とした鑑別診断能力、
 - ② 急性期から慢性期までを見据えた診療計画立案能力、
 - ③ 検査・治療選択における論理的思考過程、
 - ④ 長期的視点に立った患者支援・社会的配慮、
- を総合的に評価することを目的としている。

大学院レベルでは、単に疾患名を挙げるだけでなく、診断に至るプロセス、治療開始のタイミング、疾患概念ごとの治療戦略の違いを理解していることが重要である。本症例では、多発性硬化症、NMOSD、MOG 抗体関連疾患などの鑑別を意識しながら、検査と治療を並行して進める臨床判断力が求められる。さらに、若年女性という背景を踏まえ、就学・就労、妊娠・出産、心理的支援を含めた長期的マネジメントまで言及できるかを通じて、研究者・臨床医としての成熟度を評価する意図がある。